

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

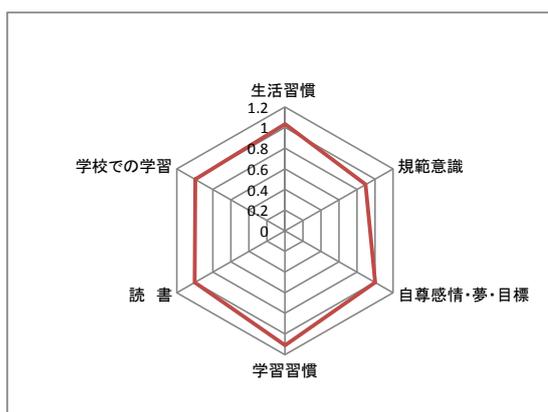
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話す・聞く能力に関する問題はできていた。 ・言語についての知識・理解・技能を問う問題に課題があり、基礎的な内容の定着を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し合いにおいて、どのように話し合っているか、話し合いの説明を考える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字やローマ字を書く問題は、正答率が低く、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・昨年度は全国平均正答率をわずかに下回っていたが、今年度は上回ることができた。 ・目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書く問題に、課題が残った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	インタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料や文章を的確にとらえて、自分の考えを明確にする問題の正答率が低く、無解答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、図形や単位量当たりの問題に課題が残った。 ・小数の計算や、三角形の底辺に対応する高さを選ぶなど、基礎的・基本的な問題に課題が残った。基本的内容の復習を行う必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数のわり算において、工夫して計算するために、式を立て直して考える問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ問題は、正答率が低く、無解答率が高かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っており、数量や図形についての技能を問う問題に課題が残った。 ・基礎的な内容を問う問題に比べて、応用的な内容の問題の方が、正答率が高くなる傾向が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	単位量当たりの大きさを求めるために、合計の数の他に調べる必要がある数を選ぶ問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	実際の場面に合わせて数の関係を式に表し、求めたい数を求める問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがあるという自尊感情が高く、将来の夢や目標をもっている児童の割合は高い。 ・きまりを守るという規範意識については、低い傾向がある。常に意識させる取組が必要である。 ・学校で主体的に学習に取り組んでいると考えている児童の割合は高い。また、「振り返り」の活動も進んで行うことができていると考えている。一方で、話し合いを通して、自分の考えをもつことが十分にできていないと感じている。話し合い活動の充実が必要である。 ・テレビ等の接触時間は、高い傾向にある。 ・自主学習等の家庭学習に対して、高い意識をもっている。しかし、実際には十分な時間取り組めていない。 ・読書時間は、全国に比べて不足している。読書活動の充実が望まれる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習や授業等の充実を図り、基礎的・基本的内容や、課題の見られる内容を定着させるようにする。 ・授業や学級会等を通して、話し合い活動の充実を図る。 ・家庭学習の時間・内容等を提示したり、マイスター賞の取組を行ったりして、家庭学習の充実を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習やテレビ等の接触時間、読書時間について、家庭への啓発を図る。 ・中学校との連携を図り、校区の基本的なくらし・きまり等についてのスタンダードを決めることを目指す。
--